

公共事業事前評価調書(公共事業事前評価結果整理表)

主要目標番号	Ⅱ.Ⅱ-1.(3)
対象事業	道路・街路事業
主要目標	都市災害防止

優先順位付け の考え方	対象地区・箇所名	個別事業の妥当性評価						事業間優先度の評価						事業間 ランク	評価委員会意見	総合意見	評価結果	
		公共関 与、事 業執行 主体の 妥当性	経済効 率性	事業 実施、 規模 の妥 当性	整備 手法 の有 効性	環境 負荷 への 配慮	事業 計画 の熟 度	貢献度ランクの評価				副次効果ランクの評価						
								貢献度 ランク	緊急輸送路 指定	自動車交通量	他事業との連携		副次効果 ランク					評点
											一体施工 有無	整備済区間に 連続する区間 有無						
指定有無	台/12h	有無	有無															
	国道141号(小田川)	○	○	○	○	○	○	a	有	9,611	有	有	1	4	SI		実施	
	(主)甲府南アルプス線 西八幡工区	○	○	○	○	○	○	a	有	21,810	—	有	1	4	SI		実施	
	国道140号(東高橋～誠心幼稚園入口)	○	○	○	○	○	○	a	有	6,726	有	—	1	4	SI		実施	
	(都)桜井町敷島線(島上条工区)	○	○	○	○	○	○	a	有	12,788	—	有	1	4	SI		実施	
公共性(緊急性)の高い区 間、および機能 遮断の影響が 大きい区間、他 事業と連携する 区間を優先す る。																		
								基準値	有	3,314	有	有	基準値	4.0				

副次効果評価調査

主要目標番号		II. II-1. (3)		主要目標に対応する副次効果項目	対象地区・箇所 で想定される副次効果	評価の説明	評価結果
主要目標		都市災害防止					
評価対象地区・箇所名		国道141号(小田川)					
主要目標項目	I 県民生活の豊かさと経済の発展を支える基盤充実	I-1. 交通の利便性の向上	(1) 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上				
			(2) 市町村中心地・大規模拠点施設へのアクセス向上				
			(3) 市街地内の交通の円滑化				
			(4) 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上				
		I-2. 生活環境の向上	(1) 森林機能の維持・向上				
			(2) 憩い空間の創出				
			(3) 生活排水処理機能の向上				
			(4) 良好な市街地空間の確保				
			(5) 適正な居住空間の確保				
			(6) 歩行者等の通行空間の確保	●			
			(7) 道路景観の向上				
		I-3. 農林水産業の振興	(1) 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上				
	(2) 農業生産力の向上						
	(3) 農業用排水能力の向上						
	(4) 農林水産業経営の合理化(非公共)						
(5) 森林整備の効率化							
II 暮らしと経済活動の安全性確保	II-1. 交通の安全性の向上	(1) 歩行者等の安全性の確保	●	○	歩行者・自転車交通量139人台/12h>93人台/12h以上、自動車交通量9,611台/12h>3,428台/12h以上、通学路の指定あり、現況の歩道幅員1.0m程度<1.4m未満 貢献度ランクa	2	
		(2) 災害に強い道路の確保	●				
		(3) 都市災害防止					
		(4) 交差点の安全性、円滑性の向上	●				
	II-2. 洪水・土砂被害の防止	(1) 洪水被害の防止					
		(2) 土石流被害の防止					
		(3) 崖崩れ被害の防止					
		(4) 地滑り被害の防止					
	II-3. 鳥獣被害の防止	(1) 鳥獣被害の軽減					
	副次効果項目	交通利便性	交通ターミナル機能の強化	●			
アクセス機能の維持			●				
主要渋滞ポイントの解消							
生活環境		水質の浄化					
		大気汚染の軽減					
		騒音・振動の軽減					
		良好な景観の創出					
		バリアフリー化の促進					
		ライフラインの強化	●	○	電線共同溝による電線、通信回路等の統合整備	1	
		身近な緑地・交流の場の提供					
		飲雑用水の安定供給					
		糞尿の処理					
地域の文化・学習等活動の支援							
各種情報の円滑な提供		●					
自然環境		水源涵養機能の向上					
	生態系空間の再生						
事故・災害防止	防火帯・延焼遮断帯の確保						
	緊急時の避難・救助機能の確保	●					
	被災時の被害波及の防止	●					
	既存施設の崩壊危険性の排除	●					
生産性	走行安全性の確保	●					
	林業生産力の向上						
	遊休農地の解消						
	新たな公共用地の創出						
	農地の保全						
その他	農林産物の販売促進						
	自然エネルギーの活用						
	リサイクルの推進						
	文化・歴史的資源等の保存・復元	●					
その他	他事業との一体施工	●	○	道路改築事業との一体施工	1		
	重要プロジェクトとしての位置づけ	●					

副次効果
評価点合計 4

注1)「主要目標に対応する副次効果項目」の欄に「●」が附されている副次効果項目のうち、「対象地区・箇所」で想定される副次効果」の欄に「○」を記入、「評価の説明」欄に具体的な評価内容を記入する。
 注2) 副次効果の内、他の主要目標に該当するものは、当該主要目標内でのランク区分の基準に従いランク付けを行い、ランクaに該当するものは2点、ランクb以下の場合には1点とする。

副次効果評価調書

主要目標番号	II. II-1. (3)		主要目標に対応する副次効果項目	対象地区・箇所 で想定される副次効果	評価の説明	評価結果
主要目標	都市災害防止					
評価対象地区・箇所名	(主) 甲府南アルプス線 西八幡工区					
主要目標項目	I 県民生活の豊かさと経済の発展を支える基盤充実	I-1. 交通の利便性の向上	(1) 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上			
			(2) 市町村中心地・大規模拠点施設へのアクセス向上			
			(3) 市街地内の交通の円滑化			
			(4) 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上			
		I-2. 生活環境の向上	(1) 森林機能の維持・向上			
			(2) 憩い空間の創出			
			(3) 生活排水処理機能の向上			
			(4) 良好な市街地空間の確保			
			(5) 適正な居住空間の確保			
			(6) 歩行者等の通行空間の確保	●		
	(7) 道路景観の向上					
	I-3. 農林水産業の振興	(1) 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上				
		(2) 農業生産力の向上				
		(3) 農業用排水能力の向上				
		(4) 農林水産業経営の合理化(非公共)				
(5) 森林整備の効率化						
II 暮らしと経済活動の安全性確保	II-1. 交通の安全性の向上	(1) 歩行者等の安全性の確保	●	○	歩行者・自転車交通量 585人台/12h(H27センサス)>93人台以上※ 自動車交通量 21,810台/12h(H27センサス)>3,428台以上※ 通学路の指定 指定あり 歩道の平均幅員 3.5m>1.4m以上	1
		(2) 災害に強い道路の確保	●			
		(3) 都市災害防止				
		(4) 交差点の安全性、円滑性の向上	●			
	II-2. 洪水・土砂被害の防止	(1) 洪水被害の防止				
		(2) 土石流被害の防止				
		(3) 崖崩れ被害の防止				
		(4) 地滑り被害の防止				
	II-3. 鳥獣被害の防止	(1) 鳥獣被害の軽減				
	副次効果項目	交通利便性	交通ターミナル機能の強化	●		
アクセス機能の維持			●			
主要渋滞ポイントの解消						
生活環境		水質の浄化				
		大気汚染の軽減				
		騒音・振動の軽減				
		良好な景観の創出				
		バリアフリー化の促進				
		ライフラインの強化	●	○	電線共同溝による電線、通信回線等の統合整備	1
		身近な緑地・交流の場の提供				
		飲雑用水の安定供給				
自然環境		水資源涵養機能の向上				
		生態系空間の再生				
事故・災害防止		防火帯・延焼遮断帯の確保				
		緊急時の避難・救助機能の確保	●	○	緊急輸送路の整備	1
	被災時の被害波及の防止	●	○	緊急輸送路の保全	1	
	既存施設の崩壊危険性の排除	●				
生産性	走行安全性の確保	●				
	林業生産力の向上					
	遊休農地の解消					
	新たな公共用地の創出					
その他	農地の保全					
	農林産物の販売促進					
	自然エネルギーの活用					
	リサイクルの推進					
	文化・歴史的資源等の保存・復元	●				
	他事業との一体施工	●				
	重要プロジェクトとしての位置づけ	●				

副次効果
評価合計 4

注1)「主要目標に対応する副次効果項目」の欄に「●」が附されている副次効果項目のうち、「対象地区・箇所」で想定される副次効果」の欄に「○」を記入、「評価の説明」欄に具体的な評価内容を記入する。
注2) 副次効果の内、他の主要目標に該当するものは、当該主要目標内でのランク区分の基準に従いランク付けを行い、ランクaに該当するものは2点、ランクb以下の場合には1点とする。

副次効果評価調書

主要目標番号	II. II-1. (3)		主要目標に対応する副次効果項目	対象地区・箇所想定される副次効果	評価の説明	評価結果	
主要目標	都市災害防止						
評価対象地区・箇所名	国道140号(東高橋～誠心幼稚園入口)						
主要目標項目	I. 県民生活の豊かさと経済の発展を支える基盤充実	I-1. 交通の利便性の向上	(1) 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上				
			(2) 市町村中心地・大規模拠点施設へのアクセス向上				
			(3) 市街地内の交通の円滑化				
			(4) 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上				
		I-2. 生活環境の向上	(1) 森林機能の維持・向上				
			(2) 憩い空間の創出				
			(3) 生活排水処理機能の向上				
			(4) 良好な市街地空間の確保				
			(5) 適正な居住空間の確保				
			(6) 歩行者等の通行空間の確保	●			
	(7) 道路景観の向上						
	I-3. 農林水産業の振興	(1) 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上					
		(2) 農業生産力の向上					
		(3) 農業用排水能力の向上					
		(4) 農林水産業経営の合理化(非公共)					
(5) 森林整備の効率化							
II. 暮らしと経済活動の安全性確保	II-1. 交通の安全性の向上	(1) 歩行者等の安全性の確保	●	○	歩行者・自転車交通量 34人台/12h(H27センサス)<93人台以上※ 自動車交通量 6,726台/12h(H27センサス)>3,428台以上※ 通学路の指定 指定あり 歩道の平均幅員 3.5m>1.4m以上	1	
		(2) 災害に強い道路の確保	●				
		(3) 都市災害防止					
		(4) 交差点の安全性、円滑性の向上	●				
	II-2. 洪水・土砂被害の防止	(1) 洪水被害の防止					
		(2) 土石流被害の防止					
		(3) 崖崩れ被害の防止					
		(4) 地滑り被害の防止					
	II-3. 鳥獣被害の防止	(1) 鳥獣被害の軽減					
	副次効果項目	交通利便性	交通ターミナル機能の強化	●			
アクセス機能の維持			●				
主要渋滞ポイントの解消							
生活環境		水質の浄化					
		大気汚染の軽減					
		騒音・振動の軽減					
		良好な景観の創出					
		バリアフリー化の促進					
		ライフラインの強化	●	○	電線共同溝による電線、通信回線等の統合整備	1	
		身近な緑地・交流の場の提供					
		飲料用水の安定供給					
		糞尿の処理					
		地域の文化・学習等活動の支援					
各種情報の円滑な提供		●					
自然環境		水源涵養機能の向上					
		生態系空間の再生					
事故・災害防止		防火帯・延焼遮断帯の確保					
		緊急時の避難・救助機能の確保	●	○	緊急輸送路の整備	1	
		被災時の被害波及の防止	●	○	緊急輸送路の保全	1	
		既存施設の崩壊危険性の排除	●				
生産性	走行安全性の確保	●					
	林業生産力の向上						
	遊休農地の解消						
	新たな公共用地の創出						
	農地の保全						
その他	農林産物の販売促進						
	自然エネルギーの活用						
	リサイクルの推進						
	文化・歴史的資源等の保存・復元	●					
他事業との一体施工	●						
重要プロジェクトとしての位置づけ	●						

副次効果
評価合計

4

注1) 1 主要目標に対応する副次効果項目の欄に ● が付されている副次効果項目のうち、「対象地区・箇所」で想定される副次効果の欄に ○ を記入、「評価の説明」欄に具体的な評価内容を記入する。
注2) 副次効果の内、他の主要目標に該当するものは、当該主要目標内でのランク区分の基準に従いランク付けを行い、ランクaに該当するものは2点、ランクb以下の場合には1点とする。

副次効果評価調書

主要目標番号	II-1-1.(3)	主要目標に対応する副次効果項目	対象地区・箇所	副次効果	評価の説明	評価結果
主要目標	都市災害防止					
評価対象地区・箇所名	(都)桜井町敷島線(島上条工区)					
主要目標項目	I・県民生活の豊かさ と経済の発展を支える 基盤充実	I-1. 交通の利便性の向上	(1) 生活圏中心都市・拠点機能へのアクセス向上			
			(2) 市町村中心地・大規模拠点施設へのアクセス向上			
			(3) 市街地内の交通の円滑化			
			(4) 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上			
		I-2. 生活環境の向上	(1) 森林機能の維持・向上			
			(2) 憩い空間の創出			
			(3) 生活排水処理機能の向上			
			(4) 良好な市街地空間の確保			
			(5) 適正な居住空間の確保			
			(6) 歩行者等の通行空間の確保	●		
			(7) 道路景観の向上			
		I-3. 農林水産業の振興	(1) 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上			
	(2) 農業生産力の向上					
	(3) 農業用排水能力の向上					
	(4) 農林水産業経営の合理化(非公共)					
(5) 森林整備の効率化						
II・暮らしと経済活動の安全性確保	II-1. 交通の安全性の向上	(1) 歩行者等の安全性の確保	●	○	歩行者・自転車交通量 756人台/12h(H27センサス)>93人台以上※ 自動車交通量 12,788台/12h(H27センサス)>3,428台以上※ 通学路の指定 指定あり 歩道の平均幅員 2.5m>1.4m以上	1
		(2) 災害に強い道路の確保	●			
		(3) 都市災害防止				
		(4) 交差点の安全性、円滑性の向上	●			
	II-2. 洪水・土砂被害の防止	(1) 洪水被害の防止				
		(2) 土石流被害の防止				
		(3) 崖崩れ被害の防止				
		(4) 地滑り被害の防止				
	II-3. 鳥獣被害の防止	(1) 鳥獣被害の軽減				
	副次効果項目	交通利便性	交通ターミナル機能の強化	●		
アクセス機能の維持			●			
主要渋滞ポイントの解消						
生活環境		水質の浄化				
		大気汚染の軽減				
		騒音・振動の軽減				
		良好な景観の創出				
		バリアフリー化の促進				
		ライフラインの強化	●	○	電線共同溝による電線、通信回線等の統合整備	1
		身近な緑地・交流の場の提供				
		飲雑用水の安定供給				
		糞尿の処理				
地域の文化・学習等活動の支援						
各種情報の円滑な提供		●				
自然環境		水源涵養機能の向上				
	生態系空間の再生					
事故・災害防止	防火帯・延焼遮断帯の確保					
	緊急時の避難・救助機能の確保	●	○	緊急輸送路の確保	1	
	被災時の被害波及の防止	●	○	緊急輸送路の確保	1	
	既存施設の崩壊危険性の排除	●				
生産性	走行安全性の確保	●				
	林業生産力の向上					
	遊休農地の解消					
	新たな公共用地の創出					
	農地の保全					
その他	農林産物の販売促進					
	自然エネルギーの活用					
	リサイクルの推進					
	文化・歴史的資源等の保存・復元	●				
他事業との一体施工	●					
重要プロジェクトとしての位置づけ	●					

副次効果
評価合計

4

注1)「主要目標に対応する副次効果項目」の欄に「●」が附されている副次効果項目のうち、「対象地区・箇所」で想定される副次効果」の欄に「○」を記入、「評価の説明」欄に具体的な評価内容を記入する。
注2)副次効果の内、他の主要目標に該当するものは、当該主要目標内でのランク区分の基準に従いランク付けを行い、ランクaに該当するものは2点、ランクb以下の場合は1点とする。